

聖路加看護学会

ニュースレター

第20回聖路加看護学会学術大会を終えて 第20回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告 第20回聖路加看護学会学術大会報告
一般社団法人聖路加看護学会創立20年記念祝賀会報告
理事長挨拶 一般社団法人 聖路加看護学会会員総会の焦点 お知らせ 編集後記

●第20回聖路加看護学会学術大会を終えて

第20回学術大会 大会長 松谷美和子（聖路加国際大学）

20回目となる本大会は162名の参加者を迎えて9月19日（土）に開催されました。シルバーウィーク初日にもかかわらず参加された皆様、企画から開催までご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

「教育と実践のハーモニー」は、教育と実践の調和により充実した実習が実現できるような工夫を共有したいと企画しました。前半では、聖路加国際大学と病院の取り組みを紹介しました。大学は、2013年度より未来の看護師を育てるフューチャー・ナースファカルティ育成プログラムを開始、全ての院生の教育力・研究力・社会貢献力を強化するプログラムを開発し、臨床に軸足をおく教育者としてクリニカル・ナースエディケーター（CNE）を育成するコースを修士課程に開設、看護職者の能力開発システム構築への幕開けを紹介しました。病院は、変革の道筋を明確に描き、第一段階として、各部署に「学部実習担当者」を配置、看護スタッフ、教員それぞれの役割を明文化し、ソフト・ハード両面で実習環境を整えました。第二段階では、CNEを教育の中心的存在として組織図上に位置づけ、最終段階において、学部教育のみならずスタッフ教育も視野に入れた看護職者の実践能力の向上全般に貢献する職位として、各部署にCNEを配置する計画であることが述べられました。尚、CNEコースは聖路加以外からのチャレンジャーも受け入れています。

後半は、大学と病院との連携が紹介されました。北里大学病院では「看護職キャリアシステム構築プラン」により、病院看護部と大学看護学部とが協働し体系的臨床研修方法・体制を構築、責任と権限を付与された臨床教員による実習が行われていました。川崎市立多摩病院では、異なる教育課程からの実習を受け入れることへの工夫が紹介されました。日本赤十字看護大学では「実習指導者研修会」を開催、実習環境の整備に力を入れ、修士課程1年目の学生全員が学部の実習指導を経験することが紹介されました。昭和大学保健医療学部看護学科では、臨床教員制度を導入し臨床実践の状況を教材化した指導を実現、多職種連携による教育等により実践とのギャップが縮小していました。

さまざまな工夫は調律作業、よきハーモニーを奏でる条件です。十分なチューニングののちに奏でられる教育と実践のハーモニーから、人々の心を癒す実践能力の自己研鑽にめざめた看護職者が、あまた生まれることを期待できる学術大会でありました。

●第20回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告

第20回学術大会の企画委員は、ほとんどが同じ大学に所属しており、また学会運営に精通したメンバーであったため、事務局はその方たちの教えに導かれながら大船に乗った気持ちで企画のプロセスを歩むことができました。

2014年7月の企画委員会キックオフ会議において、大会テーマを「教育と実践のハーモニー」に決定しました。これは、大学での教育と、様々な場での看護実践がより有機的に作用し豊かなものになっていけるとよいという思いと、「奏でる、おと、しらべ」という音楽に関するキーワードから発想されたものです。大会長が常日頃から考えている、プロフェッショナル集団として先輩後輩がともに育ちあう文化を醸成していく大切さを表すことができたのではないかと考えています。教育と実践の乖離はもはや新しい問題ではなく、普遍的に存在しています。本学術大会では、これに創造的に精力的に取り組んでいる多くの取り組みをご参加の皆様にご紹介いただき、共有できたのではないのでしょうか。

また、多くの方から和やかな会であったことを評価していただきました。メインホールでは、幕間にすてきなクラシックが流れていたのをお気づきになられたでしょうか。これは大会長自ら選曲ならびに編集したもので、この会の温かな雰囲気作りに一役かっていたことと思います。

さらに、今回は学部の卒業論文を対象にしたポスターセッションを企画し、11編の参加を得ました。今後の看護界を担う新鋭達に、研究結果を公表するところまで経験して頂く貴重な機会を提供できたのではないかと感じております。

このように会を運営できましたのも、企業展示、講演集への広告、寄付など、看護学の発展を支えてくださる企業の方々からの多くのサポートを頂いたおかげと深く感謝申し上げます。また、本会を有意義な議論の場としていただきましたシンポジスト、座長ならび発表者の皆様、当日の運営を支えてくださった実行委員、学部・大学院生ボランティアの皆様、一年あまりこの会の成功にご尽力いただきました企画委員の皆様にご心より感謝申し上げます。



第20回 聖路加看護学会学術大会報告

【日時】2015年9月19日(土)

9:00~16:30

【会場】聖路加国際大学 本館

【大会長】松谷美和子

【テーマ】教育と実践のハーモニー

総会 9:00~9:30

アリス C. セントジョン メモリアルホール

大会長講演 10:00~10:40

アリス C. セントジョン メモリアルホール
「教育と実践のハーモニー 聖路加国際大学と病院の改革: 大学に焦点を合わせて」

演者 松谷美和子

(聖路加国際大学)

座長 吉田 俊子

(宮城大学)



大会長講演

特別講演 10:50~11:30

アリス C. セントジョン メモリアルホール

「教育と実践のハーモニー 聖路加国際大学と病院の改革: 病院に焦点を合わせて」

演者 柳橋 礼子 (聖路加国際病院)

座長 吉田 千文 (聖路加国際大学)

理事会企画 11:40~12:40

聖路加看護学会創立20年記念祝賀会

「学会のこれまで そして これから」

一般演題 口演 13:00~14:30

【第1群】3階301教室

座長 青木美紀子 (聖路加国際大学)

O-1 ダウン症候群児の家族、看護学生、専門職が協働した体験

一ダウン症候群児の保育プログラムの実施を通して

○有田美和¹⁾、有森直子²⁾

¹⁾筑波大学附属病院、²⁾新潟大学

O-2 都市部にある市民健康情報サービスを利用した骨粗鬆症の相談記録の分析

一ヘルスリテラシーの観点から

○高橋恵子¹⁾、菱沼典子¹⁾、松本直子¹⁾、佐藤晋巨¹⁾、八重ゆかり¹⁾、

中山和弘¹⁾、廣瀬清人¹⁾、有森直子²⁾

¹⁾聖路加国際大学 ²⁾新潟大学

O-3 被災地の自治体職員のマインドヘルスに関する課題

○大熊恵子、吉田俊子

宮城大学

O-4 医療の「産業」としての特性から考える医療財源確保のあり方

○高橋孝

東京武蔵野病院

【第2群】3階302教室

座長 中村めぐみ

(聖路加国際病院)

O-5 成人看護学実習(慢性期)における学習促進に向けた協働

~教育と実践を結ぶ大学と臨地の協働の実践報告~

○高田幸江¹⁾、松本文奈¹⁾、

高橋奈津子¹⁾、笠井愛²⁾、

柳橋礼子²⁾

¹⁾聖路加国際大学

²⁾聖路加国際病院

O-6 病棟看護師・実習担当者・教員が急性期実習の指導時に意図したこと

○池口佳子¹⁾、中川真帆²⁾、

伊藤里奈²⁾、濱砂博美²⁾、清水寛子²⁾

¹⁾聖路加国際大学 ²⁾聖路加国際病院

O-7 A病院臨地実習担当者による学生指導の実態調査

指導の成功場面と不成功場面を通して

○笠井愛、岩崎寿賀子、千々輪香織、柳橋礼子

聖路加国際病院

O-8 臨床基礎教育の連携による演習プログラムの開発

: 多重課題、時間切迫シミュレーション演習の検討

○佐居由美¹⁾、松谷美和子¹⁾、三浦友理子¹⁾、奥裕美¹⁾、西野理英²⁾、

寺田麻子²⁾

¹⁾聖路加国際大学 ²⁾聖路加国際病院

O-9 産科救急シミュレーショントレーニングの評価尺度の開発

○加藤千穂¹⁾、片岡弥恵子²⁾、五十嵐ゆかり²⁾、蛭田明子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士後期課程 ²⁾聖路加国際大学

【第3群】4階402教室

座長 森田夏実 (東京工科大学)

O-10 不妊に悩む女性の語り場づくり~サロン活動の評価~

○川元美里、森明子、中村希

聖路加国際大学

O-11 術後の離床を表現する要素と離床の効果

一患者、看護師へのインタビューから

○加藤木真史

聖路加国際大学

O-12 視覚障害がある独居の高齢患者に糖尿病療養指導した一事例

○山口佳枝

済生会平塚病院

O-13 治療期がん患者の生きることへの思いと表出の様相

○樋勝彩子

聖路加国際大学

【第4群】4階403教室

座長 佐藤エキ子 (大原総合病院)

O-14 看護職が漢方医学を学ぶ意義とその学び方

○竹森志穂¹⁾、江口優子¹⁾、吉田千文²⁾、山田雅子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士後期課程、²⁾聖路加国際大学

O-15 看護職に対する漢方医学教育の効果と学習ニーズ

○江口優子¹⁾、竹森志穂¹⁾、吉田千文²⁾、山田雅子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士後期課程、²⁾聖路加国際大学

O-16 初任期養護教諭が成長するプロセスとその要因

○三森寧子

聖路加国際大学

O-17 高等学校・保健「キャリアプラン 妊娠・出産」の授業案と教材開発

○森明子、片岡弥恵子、五十嵐ゆかり、蛭田明子、小黒道子、

飯田真理子、新福洋子、川元美里

聖路加国際大学

一般演題 示説 13:00~14:10

【第1群】3階310教室

座長 堀内成子 (聖路加国際大学)

P-1 新しい家族を迎えるためのクラスが父親に与える影響

一父親の第1子や家族に対する気持ちの変化一

○石渡智恵美¹⁾、片岡弥恵子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院 ²⁾聖路加国際大学

P-2 助産所から病院へ転院となった女性が主体的に分娩に取り組むための援助

一助産所で働く助産師へのインタビューより一

○井上さとみ¹⁾、飯田真理子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士前期課程 ²⁾聖路加国際大学

P-3 助産所で出産した女性の満足度を高める助産師の関わりの特徴とは何か

一Women-centered care の視点から一

○薮満奈美¹⁾、新福洋子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士前期課程 ²⁾聖路加国際大学

P-4 離島で働く助産師に求められる役割と課題

○柏原由梨恵¹⁾、新福洋子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士前期課程 ²⁾聖路加国際大学

P-5 ジェンダー不平等に関するネパール都市部在住女性の認識

○河野杏奈¹⁾、長松康子²⁾

¹⁾聖路加国際病院 ²⁾聖路加国際大学

【第2群】3階303教室

座長 成瀬 和子 (東京医科大学)

P-6 先輩看護師との関わりで新人時代に看護師としてのやりがいを感じた体験

○ボズナータマラ¹⁾、西田朋子²⁾

¹⁾聖路加国際大学大学院博士前期課程

²⁾日本赤十字看護大学

P-7 山谷地域におけるホームレスのための看護活動の実態と看護師の考えや思いについての面接調査

○堀田真利子¹⁾、菱沼典子²⁾

¹⁾日本赤十字社医療センター ²⁾聖路加国際大学

P-8 ネパール・カトマンズ市における医療関連感染対策の現状と課題

一看護師に対するアンケートとFGD調査一

○浅井七枝¹⁾、長松康子²⁾

¹⁾東邦大学医療センター佐倉病院 ²⁾聖路加国際大学

P-9 フィリピン首都マニラにおける中産層の人々の死生観

○川上玲子¹⁾、長松康子²⁾

¹⁾元聖路加国際病院 ²⁾聖路加国際大学

P-10 急性期に身体抑制を経験した脳神経疾患患者をもつ家族の思いに関する検討

○吉満可南子¹⁾、大久保暢子²⁾

¹⁾千葉大学医学部附属病院 ²⁾聖路加国際大学

P-11 脳神経病棟における身体抑制の現状とそれに替わる看護技術の検討

○川口彩香¹⁾、大久保暢子²⁾

¹⁾虎の門病院 ²⁾聖路加国際大学

シンポジウム 14:40~16:20

アリス C. セントジョン メモリアルホール

「教育と実践のハーモニー」

(シンポジスト)

北里大学病院看護部と北里大学看護学部

の取り組みを通して

別府 千恵 (北里大学病院)

多様な教育機関から実習を受け入れている立場から

佐々木菜名代 (川崎市立多摩病院)

実習を担当する大学教員の立場から

西田 朋子 (日本赤十字看護大学)

臨床教員導入による臨地実習教育の変化について

福知本晴美 (昭和大学)

(座長)

菱沼典子 (聖路加国際大学)

柳橋礼子 (聖路加国際病院)



示説発表



口演発表



シンポジウム

一般社団法人聖路加看護学会 創立20年記念祝賀会報告

●第20回聖路加看護学会学術大会当日のランチタイムに、一般社団法人 聖路加看護学会 創立20年記念祝賀会が、聖路加国際大学 2階ラウンジにて開催されました。

祝賀会には、本学会を支え、その発展に長年貢献してくださっている名誉会員のみならず、歴代の理事長、学術大会参加者、そして土曜日にもかかわらず図書館や学内で学習中だった学部生など、あわせて150名以上の参加がありました。

聖路加看護学会を創設し、歴史を紡いでくださった諸先輩方に感謝するとともに、20年の節目に法人格を取得し今後ますます社会に貢献する学会として発展していかなければならないという、山田理事長の挨拶で祝賀会は開会しました。

名誉会員の今村節子氏からは、乾杯のご発声を賜りました。第二次世界大戦後の日本の看護教育、看護行政の創成に貢献した大先輩である今村氏は、当時から今まで常に実践に立脚した看護を追求する「聖路加の看護」が、戦後70年、学会創立20年を経て統合されつつあり、科学的に実証されてきていると感じると述べられました。さらに「教育と実践のハーモニー」という第20回聖路加看護学会学術大会のテーマに触れ、実践に裏付けられた聖路加の看護の進展を、これからも見守っていきたいと述べられました。

しばらくの歓談と食事ののち、「学会のこれまでそしてこれから」と題されたスライドショーが上映されました。第1部である「聖路加看護学会のこれまで1996～2015」では、1996年当時、看護学の専門分野ごとに数々の学会が設立される中、研究領域を限らず幅広い論文を発表できる場として発足したという本学会の起源を確認し、20年の軌跡を振り返りました。創立の翌年である1997年にはニュースレターの発行が開始され、2002年には学会のホームページもできました。2005年には将来構想検討委員会が発足し、2006年に日本学術会議協力学術研究団体となりました。そして2009年、看護実践科学研究助成金の創設により、研究者を資金的にサポートする体制が構築され、さらに2010年には高度実践看護開発委員会が発足しました。会員数は初年度の256人から619人に増加しており、学会誌の発行、学術大会の開催等を含めて、毎年着実に「看護実践の向上と看護学の発展

に寄与する」という、本学会の目的を達成するための活動が積み重ねられてきている状況が説明されました。

第2部は「聖路加看護学会のこれから」について、2014年度将来構想委員会 委員長の菱沼典子氏が、現在の委員会での議論の内容を説明しました。菱沼氏は、学会名に「聖路加」という学校名があることにより、一部で「同窓生のための学会」もしくは、「紀要」であるという誤解が生じているとし、学会の名称を変更する可能性も含めて、本学会が今後目指すべき方向性を、委員会を中心に引き続き検討していくと語りました。

さらに、名誉会員の内田御子氏は、創立20年（二十歳）を迎えた本学会が人間だとしたら、子どもの間は自分のことをしていればよかったが、大人は社会に貢献しなければならない、貢献すべき社会は国内にとどまらず、国際的な貢献も求められていると述べられました。

内田氏のメッセージを受けた、田代順子前理事長は、これまでも国内の看護系学会をまとめ、リードする役割を担ってきた本学会が、二十歳での一般社団法人化を期に、より自立した存在として、看護の質を向上する学会として存在していこうと語りました。

そのほかにも諸先輩方からのメッセージや、過去20回の学術大会のテーマや大会長、第1巻の学会誌や第1回学術大会講演集の展示が紹介されたのち、第7回の学術大会長をつとめた井部副理事長は、本学会は近年のマンモス学会とは異なりプログラムが並列でないことから、自分の専門領域外の研究や講演を居ながらにして聴けること、また、大会長は新たなテーマに果敢に挑戦することが出来ることが、本学会の魅力であると述べました。そして若い人には勇んで大会長を引き受けるようにとのメッセージを述べ、これを持って会はお開きになりました。

年代も、経験も異なる会員が笑顔で一同に会し、本学会のこれまでとこれからを確認する貴重な1時間となりました。

なお、上映されたスライドショーは、本学会ホームページで公開しています。http://slnr.umin.jp/whatsnew/SLNR_20th_Celebration_Slide20150919.pdf

(リポーター：ニュースレター委員会 奥裕美)



乾杯のご発声



乾杯の様子



記念すべき学会誌第1巻



お食事と歓談の様子



学会の20年間のあゆみを説明



お食事と歓談の様子



スライドショーの上映

理事長挨拶

聖路加看護学会 理事長 山田 雅子

法人化してはじめての評議員会および会員総会を終えることができました。今年度から、会員、評議員、理事の役割が変わりましたので、ポイントについてお伝えします。まず、評議員は4年に1回実施する評議員選挙で選出された会員で、任期は最長8年です(定款第15条)。その役割は、定款第17条にあります。主な点を挙げれば、4つ目の各事業年度の事業報告及び決算の決議があります。これまで評議員会の承認を経て総会で諮っていた各事業年度の計画及び予算は今回から理事会で決議することになります(定款第49条)。理事会は理事と監事で構成され、事業計画と予算を検討し決議する責任を持ちます。

理事会は会員の意に沿った事業計画及び予算を立てる責任があり、そこで、監事の役割はこれまで以上に重く、定款第32条にあるように本学会がその目的を果たすために適切に運営されていることを見守り意見を述べる役割を持ちます。また評議員は先に示したように事業報告と決算について決議しますから、評議員会で学会の活動内容を適切に評価し将来に向けて有意義な意見を述べる役割を持ちます。

一般会員には、学会運営に関わり、世に貢献する学会であるための活動強化と、学会にとって良いことは、その都度意見する事を期待します。定款第6章は会員総会にまつわる事項です。理事会が運営する学会ではなく、会員が皆で運営する学会という意識を今までよりも強くお持ちいただきたいと思えます。

今年度改めて組織した将来構想委員会では、今の学会名称がベストなのかという根本的な課題に触れ、この20周年を境に、聖路加を超えた看護の模索が始まりました。混沌とした時代に、何を世の中に発信するのかよく考え、行動してまいりたいと思えます。

成人した一般社団法人聖路加看護学会を今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

お知らせ

★学術交流委員会

2015年度の学術交流会は、「看護職者のための遺伝の基礎知識:家族歴聴取からわかること」と題して、開催いたしました。ヒトゲノムが解読され、医療を変え、なお進展しています。青木美紀子先生から遺伝医療の今をわかりやすく解説していただきました。遺伝医療は「場」「対象」「対応すべき課題や問題」が多様であり、様々な看護領域に関わる分野であることが、具体例をもって示されました。事例一つひとつについて、価値判断やきめ細かな配慮が必要であり、倫理的なセンスが求められることが大変よく伝わって参りました。

「聖路加看護学会看護実践科学助成基金」事業による2015年度の助成対象研究は2件を採択しました。また、第20回聖路加看護学会学術大会において、2014年度助成対象研究の発表がございました。(委員長:松谷美和子、佐藤エキ子)

★庶務

学会事務局の場所が再び学内で移動しました。新しい場所は2号館2階の聖路加通りに面した部屋です。2015年4月から一般社団法人としての事務局業務を行っております。事業活動につきましてはup to dateでホームページに掲載しています。定款もご覧になることができます。お気軽に問い合わせ、ご意見もお寄せください。勤務先(所属)、住所、メールアドレスなどの変更がありましたら、ご連絡ください(事務局 slnr@slcn.ac.jp) 聖路加看護学会員は準学内利用者として聖路加看護大学学術情報センター図書館を利用できます。ぜひ、周囲の皆様への入会をお勧めください。

(担当理事:森 明子・佐居由美)

編集後記

創立20年記念祝賀会で投影されたスライドショーで、本学会の設立年(1996)は聖路加看護大学では校舎移転のときであったということ思い出しました。20年が経ち、また新たな節目を迎えていることに感慨を覚えました。(ニュースレター委員会)

●発行:2015年11月24日 ●編集:奥裕美 飯岡由紀子 松本直子 小山真理子 ●印刷:㈱イーフォー
●連絡先:聖路加看護学会事務局 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内
電話 03-3543-6391(代表) FAX 03-5565-1626(代表) HPアドレス <http://slnr.umin.jp/>

■一般社団法人 聖路加看護学会会員総会の焦点

聖路加看護学会 森 明子、佐居由美(庶務担当)

～初めての会員総会を開催しました～

一般社団法人 聖路加看護学会会員総会は、2015年9月19日(土)に聖路加国際大学アリスセントジョンメモリアルホールにおいて出席者約30名で開催されました。本学会は今年度、一般社団法人となり、学会の最終決議機関は総会から評議員会に移りました。そのため、会員総会では前日の臨時評議員会にて承認された2014年度決算報告および監査報告、2015年度活動経過報告、2016年度の事業計画などについて報告されました。学会の活動としては、ニュースレターの発行、オンライン投稿・査読システムによる学会誌の発行、学術大会・学術交流集会の開催、看護実践科学基金の助成、高度実践看護の開発などの継続事業の他に、ホームページリニューアル、将来構想委員会の発足、学会創立20年祝賀会の開催などを行っています。2016年度も、これらの事業は継続されます。また、今年度の名誉会員として岩間節子氏、内山芳子氏、第22回学術大会長として亀井智子氏(聖路加国際大学)が理事会より推薦され評議員会にて承認されたことも、あわせて報告されました。

聖路加看護学会は、会員の皆様のお力添えをいただき2015年4月1日に一般社団法人となることができました。定款第4条には、学会の目的として「会員相互の学術的研鑽および交流をはかることで、看護実践の向上と看護学の発展に寄与すること」とあります。1996年に創立されて20年、領域を問わず看護実践を向上させること、看護学の発展に寄与することを目指して活動してきました。ホームページの開設、学会誌のWEB上での公開、非会員も無料の学術交流会など、外に向けた情報発信も行ってきています。今後も、本目的のもと、これまで以上に活動していきたいと存じます。引き続き、会員の皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

★学会誌編集委員会

「聖路加看護学会誌オンライン投稿システム」のシステム改修を行いました。論文作成時には、このシステムの中に up されている「論文作成フォーマット」をダウンロードして原稿をご用意ください。投稿前には、共著者全員の年会費の納入が必須となっていますので、ご理解の程お願いいたします。投稿期限は例年11月末日と5月末日です。会員の皆様からのたくさんの投稿をお待ちしています。(委員長:亀井智子)

★会計

2014年度の会費納入率は73%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度(2015年度)の会費納入がお済みでない方は下記口座にお振込みをお願いします。

振込先:郵便振替口座:00100-8-670371、加入者名:聖路加看護学会

来季会計年度は2016年4月1日～2017年3月31日で、会計年度に変更はありません。(担当理事:井部俊子・佐藤直子)

★高度実践看護検討委員会

本委員会として看護系学会等社会保険連合(以下看保連)の副代表を勤めております。看保連では、診療報酬と介護報酬改定に向け、看護に関連する各学会からの要望事項をとりまとめ、厚生労働省に繋げる窓口機能を担います。どちらも極めて複雑な制度になっていて、現状を理解するだけでも困難を伴いますが、広く深い視点から課題整理をしたいと考えています。報酬改定作業は、限られた財源の取り合いという要素がありますが、これからの超高齢社会とそれに続く人口減少時代に向け、看護分野から何を要望するのか、現場が報酬に振り回されない工夫と患者や社会にとってメリットの大きいポイントなど、賢いアイデアをお持ちの方はお知らせください。(委員長:山田雅子)